

産業・技術委員会「産学官連携先進事例の視察・意見交換会」



鳥取大学附属病院手術室にて

平成27年6月25日(木)～26日(金)の2日間、中国地域コラボレーション会議*のメンバー23名参加のもと、「先進的な医工連携を進める大学附属病院」および「官民あげて取り組みを実現したバイオマスタウン」を訪れ、主要設備等の視察や成功のポイント等についての意見交換を行った。

【1日目】鳥取大学附属病院(米子市) 【2日目】真庭バイオマスタウン(真庭市)

*中国地域の産学官連携を推進する主要88機関による組織体(当連合会ほか3機関が事務局)

■鳥取大学附属病院

鳥取大学附属病院は、平成24年10月に次世代高度医療推進センターを設置し、医工連携による医療機器のイノベーション創造、製品化や産業化の一翼を担えるセンターを目指している。例えば、中国地方では初となる内視鏡手術支援ロボット「ダヴィンチSi」を導入し、また、地元ロボットメーカーの(株)テムザックと連携して歩行補助機器を開発した。

当日は、北野副学長にご挨拶をいただいた後、植木教授(医師)から病院の具体的な取り組みについて説明を受けた。その後、歩行補助機器を試乗、手術室へ移動してダヴィンチSiを試操作させていただくとともに、意見交換を行った。



【歩行補助機器】



【ダヴィンチSi】



■真庭市(バイオマスタウン)

真庭市はバイオマスタウンの実現を目指し、「賑わいと安らぎのある杜市」づくりを目標に地元企業と連携して数々の振興策を行っている。木質バイオマスの一連の循環そのものが見学できる視察ルートを設定しており、技術的な側面からだけでなく真庭市の取り組みの全容を効率的に見学できる。当日は、真庭市からバイオマスタウン構築の経緯と特徴について説明を受けた後、意見交換を行った。その後、タウンの核となる銘建工業(株)、木質バイオマス集積基地、ランデス(株)を視察した。



●銘建工業株式会社

大正12年の創業以来、木材を活かし、余すところなく使うという精神のもと、プレーナー屑や樹皮など

を発電用ボイラーで燃やし、工場内で使用する電力の大半をまかなうと同時に売電も実施している。また、集成材の生産に合わせてペレットを安定的に生産している。

【ペレット製造装置】



[発電設備・ペレット製造設備等を見学]

●木質バイオマス集積基地

真庭市の本格的な木材利用の開始を踏まえ、資源の安定供給を目的に、真庭木材事業協同組合が主体となり、平成20年に建設された大規模な木材集積基地。林地残材や間伐材を買い取り・粉碎し、発電向け燃料用チップや製紙用のチップ等に変えて販売している。

【集材場】



[集材場・チップ置き場を見学]

●ランデス株式会社

昭和37年創業。河川護岸工事や道路舗装等向けの舗装材が主力。1980年代初頭からは、地球環境問題を強く意識した環境保全型製品を数多く手がけている。例えばヒノキ間伐材を3mm以下の木片に粉碎してセメントと混合し、花壇縁石やブロックなどガーデニング製品に成形してホームセンター等で販売している。

[環境保全型製品を見学]

視察・意見交換を踏まえた感想

- ・鳥取大学附属病院では、徹底的に独自性を追求する気風が改革の推進力であると感じた。
- ・真庭の取り組みは、地元の将来に危機感を覚え若手経営者(銘建工業やランデスの社長他)が15年前に立ち上げた勉強会「21世紀の真庭塾」から出発したことに感銘。成功の最大のポイントは民間人の情熱であることを再確認した。

(担当:有馬)